

評価結果概要表

作成日 19年8月23日

事業所番号	2774600635	評価機関名	特定非営利活動法人
法人名	(株)日本ケアコンサルティング		近畿マネジメント・サポート・センター
事業所名	グループホーム 柏原	所在地	大阪市東住吉区山坂5-5-14-103
所在地	大阪府柏原市円明町11番17号 電話 0729-75-0070	評価調査日	平成 19年 8月 10日
		評価確定日	平成 19年 8月 23日

【情報提供票より】(平成19年8月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 9月 1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数 18人
職員数	10人 常勤 2非常勤 8人 常勤換算 5.8人

(2) 建物概要

建物の構造	鉄骨 造り 4階建ての(2階~3階部分)
-------	-------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,000円	その他の経費(月額30,000円)		
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金を含む)	有 (25万円)	有の場合	30ヶ月償却の有無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,300円		

(4) 利用者の概要(8月1日現在)

利用者人数	17名	男性	6名	女性	11名
要介護1	1名	要介護2	6名		
要介護3	4名	要介護4	6名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢 平均	82才	最低	67才	最高	97才

(5) 協力医療機関

医療法人清晃会	ヤスタ	クリニック
谷口歯科		


【外部評価で確認された、この事業所の特徴】

開設後3年間で、運営者及び職員の献身的な努力で、入居者は明るい雰囲気でも過ごせる体制が整っている。特に、意思の疎通を円滑にするため昨年度から毎朝、2階と3階との合同交流会を開き、コミュニケーションギャップが起こらないように努力している。ホームからの眺望は素晴らしく、談話室から河内平野や石川の堤防が近くに見え、毎年8月にはPL教団の打ち上げ花火の観覧席となる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題と、その後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	緊急避難の通路については、職員による訓練の結果から、消防署と協議して避難の方法と場所を定めている。 また、風呂場の汚れた衣類の処理法を改めることにより、洗い場のスペースに余裕が生まれ、解決していた。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	ケアマネが加えられたので、「2Fいこい」については分権された。 その結果、現管理者との協働により改善が奨められ、更に、各フロアの職員への職務分担が定められている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容、及び、それらを活かした取り組み(関連項目:外部4、5、6)
	柏原市のご指導により、本年6月に第1回が開催され、様々なご意見を頂いたため、現在、職員一同で、検討中、今後は2ヶ月ごとの開催と、市が主催する介護保険事業者連絡会に出席し、事例の検討や情報の交換等についても、積極的に行う予定。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7、8)
	当ホームは、交差点の横に接しているため、日頃から入居されている方々の無断外出には、職員全員が注意しているが、極めて重要なため、引継ぎ時を含め機会あるごとに、注意を喚起している。 投棄についての、ご家族の意見については、根気よく説明を重ねている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地元の区長さんが交代され、今回の運営会議にも出席して頂けるようになり、協力的な発言を承わっているため、今までと違って地域の交流がスムーズになる予定です。 更に、地区内の各種組織とも良好な関係を築いていくことにしている。例えば、野菜や草花の栽培について、地元の指導を得ることなどを予定している。

評価結果（詳細）

（部分は重点項目です）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I 理念に基づく運営					
1 理念と共有					
1	1	○ 地域密着型サービスとしての理念 地域の中で、その人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	設立当初からの理念である認知症高齢者の「心身の痛みを緩和し、「心を癒し」「生活に満足できる」は、変わっていないが、世の中の動きには、合わせている。	○	3年間の努力を糧として、介護レベルの更なる向上を目指してください。
2	2	○ 理念の共有と、日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	8時、9時、14時の出勤時に理念を読み上げて、管理者からの注意事項、引継ぎ事項の伝達を実施している		
2 地域との支えあい					
3	5	○ 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等の地域活動に参加し、地域の人々と交流することに努めている	地元の区長が交代され、運営協議会の一員として参加することになり、今後の交流が老人会、幼少の子供達とも出来るように期待している。	○	近隣の方々との、日頃の挨拶の声かけ等、気軽に立ち寄っていただけるように、取り組んでください。
3 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○ 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	開設当初の状態から脱却でき、職員一同が各自の職務に目標を持って取り組んでいる。 要改善点や、定期的な業務の見直しにも取り組んでいる。	○	組織の強みを発揮して、業務の改善を進めてください。
5	8	○ 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について、報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスの向上に活かしている	平成19年6月から運営推進会議が開催でき、更に地元の区長さんの交代もあり、これからは会議の成果を活かすことを期待している。	○	会議で得られた柏原市の各種の資料や、研修会等の機会を活かして、改善の糧にしてください。
6	9	○ 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	平成19年6月に第1回の会議が開かれ、第2回は8月に開催が予定されているが、この席上での情報を基に、改善に取り組むことにしている。		
4 理念を実践するための体制					
7	14	○ 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び、個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時に近況の報告が行われており、更に、利用料を請求する際のホーム便りで、報告している。		
8	15	○ 運営に関する家族等の意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームの玄関に、ご意見箱を設置し、更に、苦情の承わりの担当者を配置している。 苦情処理については、管理者を中心にミーティングをして、全員が内容を共有し、問題解決に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	9 18	○ 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設当初を除き、職員の勤続は安定しており、日常のケアも慣れた職員が中心になって行われている。		

5 人材の育成と支援

	10 19	○ 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	大阪府や柏原市が主催する研修会には、積極的に受講し、終了後は、所内で復習を兼ねて、報告会を開いている。	○	個人別の履修過程を把握し、府や市の研修会の案内や、各種の資料類の広報を参考にしてください。
	11 20	○ 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて質を向上させていく取り組みをしている	他の事業所との交流を図る目的で、親睦会の設立を目指しているようですが、設立後に情報の収集と親睦を図っている。	○	良い実績があれば、その情報を提供し、相互のレベルアップに資する内容であれば役立つので、大いに奨めたい

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1 相談から利用に至るまでの関係づくりと、その対応

	12 26	○ 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し納得した上で、サービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	運営者が入居者や、ご家族に解りやすく説明をしている。 事前の体験利用も含め、入居者の立場になって説明し、理解を得ている。		
--	-------	---	---	--	--

2 新たな関係づくりと、これまでの関係継続への支援

	13 27	○ 本人と共に過ごし、支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、日常の介護をしながら入居者が出来ることを見守り、決して急がない。 時には、寄り添いながら、言動を受け止めている。		
--	-------	--	---	--	--

III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1 一人ひとりの把握

	14 33	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、介護をしながら話しやすい雰囲気の中で、希望や意向の把握に努めている。		
--	-------	---	--	--	--

2 本人がより良く暮らしを続けるための介護計画の作成と、見直し

	15 36	○ チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	職員間で、本人らしい生活が送れるように、情報を交換し合って計画を立てている。		
--	-------	--	--	--	--

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
16	37	○ 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	要介護5の入居者に、適切な介護と治療、更に、ご本人の意欲と努力で、数カ月後に退所し、現在普通の日常生活を送っておられる		

3 多機能性を活かした柔軟な支援

17	39	○ 事業所の多機能性を活かした支援 本人や、家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	子供さんが、知的障害の厚生施設に入所されている方が居て、施設側と連絡、調整の上、月1回の面会が出来るようになった。		
----	----	---	---	--	--

4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

18	43	○ かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られた、かかりつけ医と、事業所の関係を築きながら、適切な治療を受けられるように支援している	本人・ご家族の同意のもとで、24時間体制で、診ていただける体制をとっている。		
19	47	○ 重度化や週末期に向けた方針の共有 重度化した場合や、終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびに、かかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	設立時より、重度化、終末期に向けた対応を図ってきたが、医療関係者等と、より親密な支援を得ながら、準備を整えている。		

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1 その人らしい暮らしの支援

(1) 一人ひとりの尊重

20	50	○ プライバシー確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	ご本人に、馴染みやすいように声かけをするようにしているが、プライバシーの限度を超えないように、職員に注意を喚起している		
21	52	○ 日々の、その人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や食事の時間は、一人ひとりの時間に合わせて支援している		

(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援

22	54	○ 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	全員が揃い、打ち解けた話し合いの場で、食事の希望を聞いている。又、季節を取り入れた食材を用意している。		
----	----	---	---	--	--

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
23	57	○ 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望される方（約半数）の要望に合わせている。		

(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援

24	59	○ 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	近隣の大型ショッピングセンターへ、楽しみと買い物を兼ねて、出掛けている。		
25	61	○ 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりの、その日の希望にそって戸外に出かけられるよう支援している	近所の散歩や、ホームの回りで季節の花を栽培している。 今後は、地元の交流による発展を期待している。		

(4) 安心と安全を支える支援

26	66	○ 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中、玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	建物の構造上、原則的には鍵はかけられていないが、ホームが交差点に面して交通量が多いので、入居者の徘徊には、細心の注意をしている。		
27	71	○ 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ホームが2階と3階のため、年に2回、消防署の指導で、避難訓練を実施している。又、職員による模擬訓練も実施している。		

(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援

28	77	○ 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食後、摂取量をチェックして確認し、その人に合った食事形態や、食器等の工夫をしている。		
----	----	--	---	--	--

2 その人らしい暮らしを支える生活習慣づくり

(1) 居心地のよい環境づくり

29	81	○ 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気でも過ごせるように、季節の花が活けられている。又、室内の清掃は行き届いている		
30	83	○ 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や装飾品を持ち込んでもらい、ご本人が居心地よく生活ができるように支援している。		